

心のままに描き叶えた夢

近年は、油絵具やアクリル絵具で、しなやかに神仏像を描いてフアンを楽しませていた牛丸さんですが、ニューヨークで展示する風神雷神図は、タッチがガラリと変化。躍動感あふれる作品で新たな境地にたどり着きました。

「還暦を迎えるにあたり、もう一度生まれ変わるような変化を求めています」。牛丸さんは、



▲「雷神図」(左)と「風神図」(右) ニューヨークで展示の後、建仁寺へ寄贈されます

西九州大学で学生たちと関わる中で、児童画の「のびのび」とした表現に惹かれ、もっと自由に絵を描きたいという気持ちが生えたとそうです。さらに昨年、臨床美術士(クリニカルアート)の資格取得のため、京都市で行われた研修会に参加。その際に、俵屋宗達(たわやそうだつ)が描いた国宝「風神雷神図」など、数々の文化財を所蔵する建仁寺(京都府)を訪れ、出会った僧侶に自身が描いた風神雷神図を見てほしいと積極的に申し出ます。後に絵を送ることになり、なんと寄贈が依頼されたそうです。

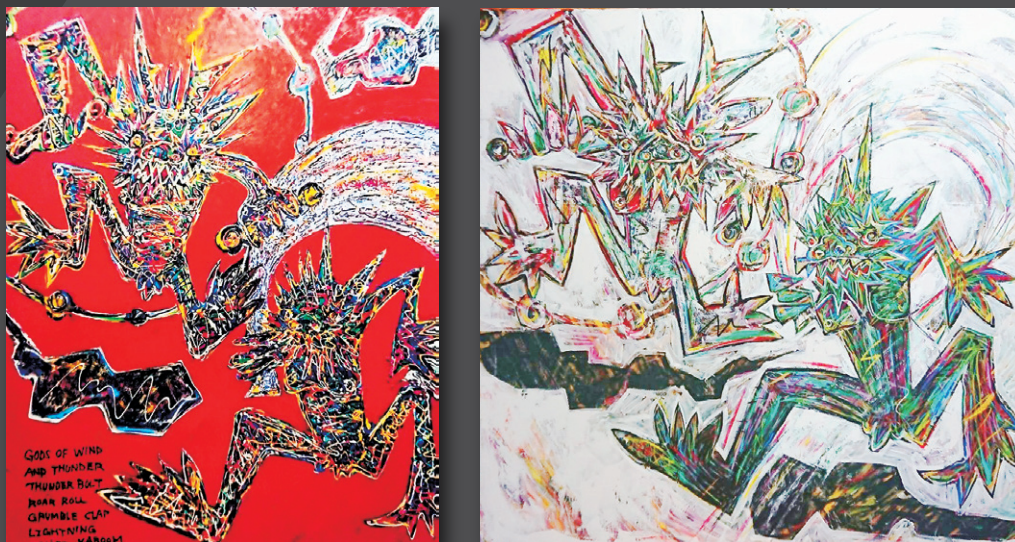
建仁寺へは、ニューヨークで展示する作品も含め、4点を寄贈予定。「国宝の風神雷神図を保存されてきたお寺への寄贈は、人生のゴールとも言えるほど嬉しいです」と話す牛丸さんは、変化を恐れず楽しみながら自身を高め続けています。

活躍する姿で人々に勇気を

ニューヨークでのグループ展への参加と、建仁寺への寄贈という2つの夢を叶えた牛丸さん。教育者としても活躍しながら絵を描き続け、夢を実現できたのは、絵が好きだという「因(生まれつきの特性)」を「縁(出会うことのできた徳のある人々)」の力で育てていただいたからに他ならないと話します。

出会ってきた多くの人との縁を大切にしていた牛丸さんは「これからはアートをとおしてさ

まざまな文化の融合に取り組む姿を見せることで、特に若者に勇気を与えていきたいですね」と、さらなる進化を目指します。



▲建仁寺に寄贈する「風神雷神図屏【夏の京】」(左)と「風神雷神図屏【冬の京】」(右)

問い合わせ

西九州大学短期大学部幼児保育学科
牛丸研究室
☎ 37-9596